大分市歴史資料館ニュース

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

vol. 88
2009.9.26

大分市歴史資料館 テーマ展示Ⅱ

みやびの世界 ～源氏物語絵～

9月26日(土)～11月23日(月)

源氏物語絵　27帖「篝火(かがりび)」

トピックス Topics

大分市歴史資料館に電車で行こう！

皆さん、「大分市歴史資料館」って知っていますか？

大分駅から電車で約15分、豊後国分駅を降りるとすぐそこにある東大寺大仏殿や唐招提寺など奈良時代の寺院を思わせる外観の建物が歴史資料館です。歴史資料館は、豊後国分寺跡史跡公園として整備されている豊後国分寺跡に隣接してあります。館内には、国分寺跡の復元模型や発掘された資料のほか、考古・歴史・民俗の各分野の資料を展示しています。勾玉作りなどの体験講座や歴史を学ぶための各種講座も年間を通して開催しており、さまざまな形で大分市の歴史が学べるようになっています。史跡公園も歴史散策が楽しめる憩いの場所になっています。

意外にその存在が知られていない歴史資料館ですが、大分駅から電車に乗るとあっという間に着いてしまいます。

移り変っていく車窓の風景を眺めながら、市街地の喧噪から離れ、周りを田畑で囲まれた静かな環境の中で、天平の息吹を感じてみませんか。

大分駅⇔豊後国分駅時刻表

由布院方面(上り)		大分方面(下り)	
大分駅発	豊後国分駅着	豊後国分駅発	大分駅着
9:11	9:26	9:26	9:40
9:41	9:56	9:55	10:09
10:13	10:27	10:13	10:28
10:50	11:05	11:05	11:19
11:23	11:38	11:50	12:04
12:13	12:28	12:28	12:42
12:56	13:13	13:23	13:44
13:44	13:59	14:09	14:24
14:08	14:22	14:32	14:46
14:31	14:46	14:56	15:15
15:16	15:30	15:40	15:57
15:42	15:56	16:06	16:21
16:05	16:20	16:47	17:02
16:32	16:47	17:11	17:26

平成21年3月14日ダイヤ改正

インフォメーション Information

テーマ展解説講座

内容　講座室でテーマ展「みやびの世界～源氏物語絵」について、スライドなどで解説します。

日時　9月27日(日)　14時～15時30分

講師　大分市歴史資料館職員

参加費　講座は無料です。
※展示をご覧になる場合は観覧料が必要です。

ミュージアム・シアター

実施日　〔●大人向け ◎子ども向け〕

9月27日(日)　●御城下絵図
～豊後の天下市 浜の市の賑わい～
◎まんが日本昔ばなし
「小太郎と母龍」「オオカミと娘」

10月25日(日)　●国宝「源氏物語絵巻」
◎まんが日本昔ばなし
「タヌキと彦一」「ねずみの嫁」

11月22日(日)　●絵図にしのぶ江戸のくらし
◎まんが日本昔ばなし
「花咲か爺さん」「夢を買う」

時間　13時～14時

料金　無料　※事前の申し込みは必要ありません。

ふれあい歴史体験講座

定員　各回70名(先着順) ※遺跡発掘体験のみ50名

時間　午前の部　9時30分～(約2時間)
午後の部　14時00分～(約2時間)

実施日	内容	時間	材料費	受付開始日
10月10日(土)	土笛作り	午前中のみ	50円	受付中
10月24日(土)	遺跡発掘体験	午前中のみ	無料	10月8日(木)
11月14日(土)	火起こし	午前中のみ	無料	10月22日(木)
11月28日(土)	勾玉作り	午前・午後	200円	11月 7日(土)

応募　上記の受付開始日より、電話にて応募ください。
(大分市歴史資料館：097-549-0880)

ふるさとの歴史再発見講座：民俗・文化史のコース

開催期間　11月～12月　毎月第1～3土曜日(計6回)

時間　毎回14時～15時30分

対象　高校生以上　**定員**　70名　**受講料**　300円

応募　往復はがきで住所、氏名、電話番号、講座名、参加希望の旨を記入し、10月21日(消印有効)までに歴史資料館までお申し込みください。
※多数の場合は抽選となります。

利用案内

■開館時間　9時から17時(入館は16時30分まで)

■休館日　月曜日　但し第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館日
祝日の翌日　但し土・日曜の場合は開館
年末年始　12月28日～1月4日

■観覧料　大人200円(団体150円)　高校生100円(団体50円)
※団体は20名以上、小中学生は無料
※特別展開催中は別料金となる場合があります。
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。
◎入館時に受付で手帳を提示してください。

■交通機関
・JR久大本線　豊後国分駅下車 徒歩2分
・大分バス[国分新町ゆき]
歴史資料館入口下車 徒歩5分
・大分自動車道
大分I.C・光吉I.Cよりともに約15分

発行日：平成21年9月26日
発　行：大分市歴史資料館　〒870-0864　大分市大字国分960-1　TEL097-549-0880
※ホームページ　http://www.city.oita.oita.jp/(大分市ホームページ)の「施設ガイド」も併せてご覧下さい。

大分市歴史資料館　テーマ展示Ⅱ

みやびの世界 ～源氏物語絵～

会期：9月26日（土）～11月23日（月）

11世紀の初めに紫式部が書いた「源氏物語」は、貴公子、光源氏の波乱に富んだ人生を主軸に描かれた長編文学です。そのストーリーの展開の面白さから「源氏物語」は、時代を通して多くの人々に愛読されてきました。

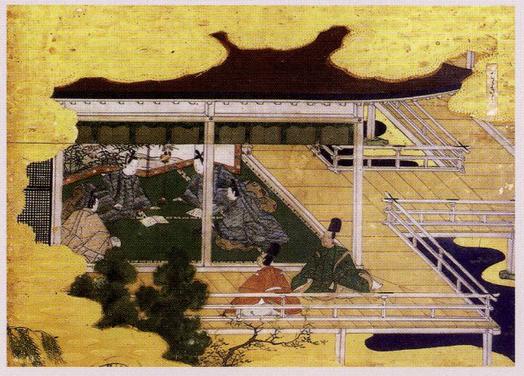
特にこの物語を一層魅力的にしたのが「源氏物語絵巻」でした。その後、物語を題材にした色紙絵・扇面絵・屏風絵が描かれ、絵そのものが鑑賞の対象とされるようになりました。

当館が所蔵する源氏物語の絵（＝源氏絵）を通して、光源氏の織り成す雅な平安時代の公家社会の有り様をご鑑賞ください。

源氏絵屏風の系譜

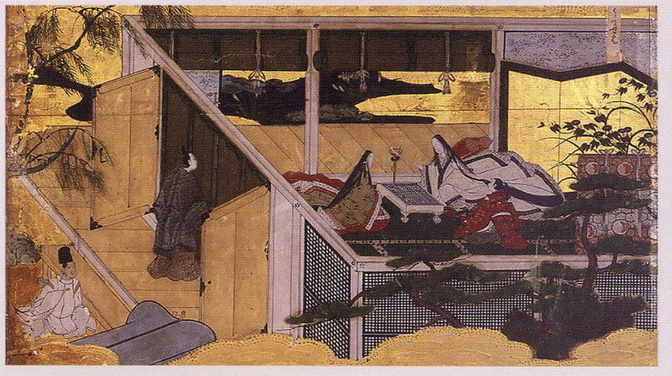
室町時代の15世紀後半頃から、源氏絵の扇面を貼り付けた屏風のことが公家たちの日記の中に度々みられるようになります。使用後の扇面を貼って屏風に仕立てたものや、未使用の扇面を用いた屏風などが今日伝えられており、当時源氏絵を描いた扇やそれを貼った屏風が公家層を中心に愛好されていたことがうかがえます。この頃、こうした源氏絵の制作を主に担ったのが土佐派の絵師たちで、その直系にあった土佐光信（？－1522頃）は、源氏絵を直接屏風に描くという新たな様式を生み出し、以後この様式は子の光茂らへと受け継がれました。特に、光茂の弟子の光吉（1539－1613）は源氏絵を得意とし、画帳・屏風絵などの数多くの作品を残しています。

こうした源氏絵の流行は武士層の間にも広がり、信長・秀吉・家康などの天下人の画業を担った狩野派においても永徳（1543－90）以降、本格的に源氏絵を手がけられるようになりました。もともと中国系絵画を得意とした狩野派でしたが、源氏絵は同派の主要な画題の一つとして代々受け継がれていきました。



2帖　帚木（ははきぎ）　源氏17歳

長雨の夜、宮中の光源氏の宿直所に、頭中将・左馬頭・藤式部丞が集まり、女性談義を行っている場面。



3帖　空蝉（うつせみ）　源氏17歳

源氏が中川邸に忍び込み、空蝉と軒端荻が碁を打つ姿をのぞき見ている場面。

表紙紹介

「源氏物語」の27帖、篝火の一場面で、源氏が篝火を焚き、玉鬘（頭中将の娘で、柏木の義姉）の部屋に息子夕霧と内大臣（頭中将）の長男柏木たちを招き、管弦の合奏を行っている様子を描いています。作例の少ない図様で、光信の源氏絵創作の活動を物語る作品です。（源氏36歳）

伝宇佐神宮旧蔵の源氏絵

屏風に絵を直接描き込む源氏絵屏風には、①１双の屏風に金雲で場面を区切りながら「源氏物語」の54帖の全てを網羅し描くもの、②同じく金雲を用いながら物語54帖の中からいくつかの帖を選んで描くもの、③屏風の１隻（１双の半分）に１場面を描くもの、大きく3つのタイプがあります。

当館が所蔵する源氏絵は、宇佐神宮旧蔵と伝えられるもので、もとは６曲１双の屏風絵でした。物語54帖から１帖1場面ずつを描いた、上記①のタイプに属する、いわゆる「五十四帖屏風」と呼ばれる作品でした。故あって30数年前に場面ごとに切り離されて額装にされ、幾人かの手元に分けられました。このうち現在確認できるのは、個人所蔵の5面と某寺所蔵の1面、それに当館所蔵の23面の計29面にすぎません。本絵は、面長に引目鉤鼻の人物の顔、丸みのある岩、緩やかなカーブを基調とした樹木の描写などから、狩野永徳の嫡子、光信（？－1608）に近い絵師の手によるものとみられています。また、この“光信様式”の典型的な作品が多く残る慶長10年から同末年（1605～14）、美術史的にいう桃山時代末頃の作品と考えられています。現存する「五十四帖屏風」のほとんどが江戸時代初期以降の作品とされるなか、初期の作例として大変貴重なものといえます。

当館が所蔵する伝宇佐神宮旧蔵の源氏絵

帖番	帖名	帖番	帖名
2帖	帚　木（ははきぎ）	27帖	篝　火（かがりび）
3帖	空　蝉（うつせみ）	29帖	行　幸（みゆき）
5帖	若　紫（わかむらさき）	38帖	鈴　虫（すずむし）
6帖	末摘花（すえつむはな）	39帖	夕　霧（ゆうぎり）
8帖	花　宴（はなのえん）	40帖	御　法（みのり）
11帖	花散里（はなちるさと）	41帖	幻　（まぼろし）
12帖	須　磨（すま）	43帖	紅　梅（こうばい）
13帖	明　石（あかし）	44帖	竹　河（たけかわ）
15帖	蓬　生（よもぎう）	46帖	椎　本（しいがもと）
16帖	関　屋（せきや）	49帖	宿　木（やどりぎ）
18帖	松　風（まつかぜ）	52帖	蜻　蛉（かげろう）
21帖	少　女（おとめ）		

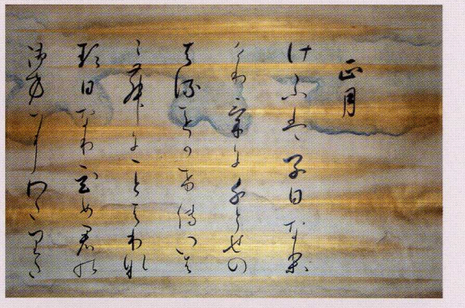
8帖　花宴（はなのえん）　源氏20歳

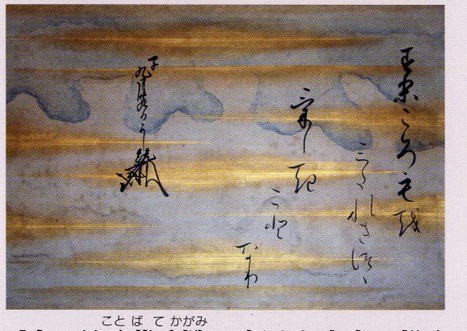
桜の宴の後、源氏が宮中の弘徽殿の細殿で扇をかざして歩く女性、朧月夜に出会う場面。

大友氏と源氏物語－吉統筆「十二月言葉手鑑」

1月から12月までの各月にちなんだ「源氏物語」の一節を、金泥などで彩られた綺麗な料紙に清書し、それらを厚手の台紙に貼って折帖のかたちに装丁したものです。奥書に「子 九月廿九日　よし統（花押）」の署名があり、花押の形状や全体の筆跡から、天正16年（1588）9月29日に大友宗麟の嫡子吉統（義統）が記したものであることが分かります。

武家と公家を一つにまとめ上げ、天下に号令を発した関白豊臣秀吉・同秀次は、日本の伝統的な文化においても主導的な役割を演じ、古典文学、とりわけ「源氏物語」を書写するなど、その受容を盛んに行いました。この風潮は豊臣政権下にあった武将たちにも影響を与え、茶の湯・和歌・連歌と同様、必須の教養として享受されていきました。本資料は、これを受けて、同じく豊臣政権下にあった大友吉統が書き表したものと考えられます。





「十二月言葉手鑑」の初めと奥書の部分